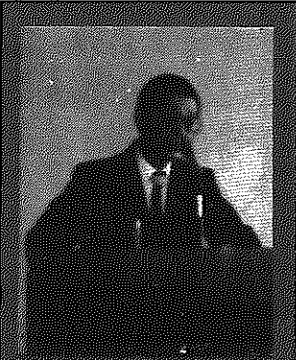
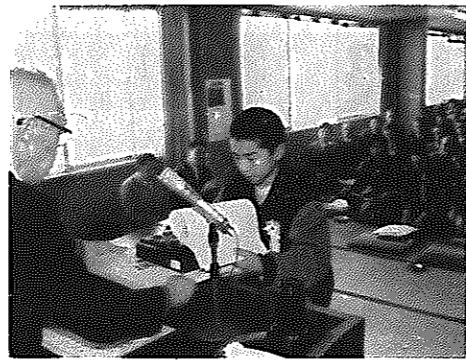


青少年健全育成市民会議

市民総ぐるみで青少年の健全育成を図ろうと、3月5日、青年教育センターに関係者や一般市民ら約100人が集まり、青少年健全育成市民会議が開かれました。会議では、善行青少年として、遠く離れた家に住む1年生の児童を交通事故から守るため、毎日家まで送り迎えした茨曾根小学校6年の関根一晴君と中沢重信君が。また、優良団体として、青少年健全育成のため、地域で活発に活動している魚町親子会と能登子供育成会が、それぞれ表彰されました。その後に行われた講演を紹介します。



野瀬吉栄氏

これまでは根本的な問題に目を

野瀬吉栄氏

- 新潟大学教育学部非常勤講師
- 県教育相談指導員
- 社会教育講師
- など、健全育成指導に活躍されています。

小林地区・部落対抗卓球大会

家庭、地域、学校が一体となった年中行事



二月二十三日、小林小学校体育館いっぴいに、応援や歓声が響きわたりました



森山礼子さん (下木山・理容師・32歳)

この卓球大会は、親子で楽しめるし、部落はもちろん、ほかの小林地区の人たちと親しくを深められます。卓球の上手、下手で出場するのでなく、どんな人でも参加してほしいですね。特に二十代の若い人たちの協力もつとあれば、より盛大になるんじゃないかな。

若い人たちの協力がほしい

「地区民の健康づくりと親ばくを図ろう」と、小林地区では毎年、部落対抗の卓球大会が開催されています。

この大会は、明るい家庭づくり推進運動の一つとして始められたもので、現在では地区公民館の年中行事として定着。今年で九回目を迎えました。

今大会には三十九チーム、三百五十人が参加。小林小学校の体育館に置かれた八台の卓球台は、一日中フル回転でした。

地区公民館長の徳長さんは「各部落ごとに卓球台を購入し、集会所や農作業小屋などで練習を行っているほどの熱の入りようです。また、地区民だけでなく、学校の先生がチームを編成し、参加しています。家庭、地域、学校が一体となった行事です」と年々盛況になってゆく同大会を見つめ、うれしそうに話してくれました。

講演『なぜ今「いじめ」なのか』

心がらつきあえない子供たち

子供はけんかを通して、くやしさを覚えています。そして他人の痛みがわかり、心からつきあえる人間になっていきます。

今の子供は、テレビやファミコンの生活の中で、友達とのつきあいが希薄です。話はするが、悩みを打ち明けられるような深いつきあいのできる友達がいません。けんかなどの経験もあまりなく、激しい情緒的緊張に耐えられません。

中学生ともなっても、社会性(人とのつきあい)は七、八歳程度。それに比べて体力があるわけですから、すごいことをやります。

問題には共通の根 校内暴力やいじめ、登校拒否には共通の根があると考えられます。

校内暴力を学校や警察が抑えた。すると子供はその口として弱い者をいじめようになった。その後、みんながやっていることとして、あつという間に広まった。自殺も増えた。

向けないで、現象だけを追いかけて直そうとしていた感があります。愛情が薄たされず、愛に病んでいく子供が増えています。

不適応行動の直接の原因は、ストレスからくる情緒不安定です。このなると子供は、①不満を相手にぶちまけ、攻撃する(非行暴力、いじめ) ②逃げ込む(登校拒否、怠惰、自殺) ③身体や精神症状に訴える(実際に病気になる。医者に見せても異常がない)という行動に出ます。

これには社会、大人の対応が大きく影響します。例えば、親としては、みんないい子にしたいと思うわけですが、期待にはずれる子供が出ると「勉強しろ」などと、管理や干渉、支配しようとして、子供はこれを愛情としては受け止めません。

家庭は子供にとって、安全で、愛情があり、ゆったりとした場であってほしいわけですが、親からあまりいろいろ言われると、イライラしてきます。症状が出た子供



継続は力

現代の子のよさは、少々のことにも、ものおじすることなく明るく活動的なところ。その反面、いじめに見られるように、「他人を思いやる心」「物を大切にできる心」「がんばり抜く気力」などに欠けています。

本校の「戸石っ子」たちは、恵まれた環境の中で育てられていることもあって、素直で明るい性格です。しかし、現代っ子に共通するこれらの傾向については、なしとは言いきれません。

県の「金銭教育研究校」に指定されたことを機に、子供の基本的な生活習慣のあり方と、身に付けさせるための実践を進めて



写真と文は関係ありません

| | 4 | 9 | 12 | % | |
|------|------|------|------|------|------|
| えんぴつ | 5.5 | 60.0 | 65.1 | 83.2 | 85.4 |
| くつ | 50.7 | 72.2 | 82.0 | 90.3 | 97.0 |
| ハンカチ | 34.5 | 70.0 | 78.4 | 72.5 | 72.7 |
| 名札 | 45.0 | 94.0 | 96.1 | 93.3 | 97.0 |
| 赤白帽子 | 84.5 | 91.0 | 96.0 | 98.0 | 97.6 |

この結果から、地域、家庭、学校の連帯感と継続の力の大切さを身をもって知りました。「戸石小学校にお願いしました

一人の中には三つの心

子供の心の中には、①道徳や価値、規範を受け持つ心(学校、親)と、②興味を持ったことに積極的に行動する心(子供)と、③この二つを経験などで判断して調整する心(大人)があります。これら三つの心のバランスが取れていることが大事です。

現在は②が大きくなっています。②が押さえつけられ、①も決断できず、③が決断してしまいます。

このため、イライラしてきます。①による管理だけが先行すると、子供はバランスを取ろうとして、おかしな行動に出ます。

逆に、③によって、のびのびと自分を出してケンカを体験してきた子供は、④も育ちます。

自分に疑問を持っている 中学・高校生時代は、子供から大人への変わり目で、体、精神とも不安定です。これまでの依存していた状態から、自分のことは自分で判断する独立した状態へと、新しい生き方を再建していかなければなりません。今までの自分を否定するわけですから、自分に疑問を持つたり、劣等感を持つていきます。

この時期に、いかにして安定し

たのびながら生きていく

先日、東京都中野区で起こった自殺事件では、学校でいじめにあっている子供の父親が「負けちゃいかん。しっかりしろ」と言ったそうですが、このように激励するのはよくありません。その子は登校の途中で、親せきのおばあちゃんに電話をかけたが、不在でその後すぐに自殺しました。追い詰められた状況で、自分の苦しみを聞いて、わかってくれる人がいなかったわけです。

つまり、子供の苦しみに共感し、支えてやる必要があります。ただひたすら聞く態度が大事です。この苦しみに人間を大きくする基です。それだけに残念なことと思います。

子供が「これが新しい生き方なんだ」と思ったことを承認し、OKを出してやるのが大切です。しかし、今の子供は監視され、NOの中に置かれています。

子供のよさときあうことも大切です。よいところを認め、わかっている子供は心は安定します。要は親のぬくもり感をどう伝えるかにかかっていると思います。

【一時間半の講演内容を短くしたものです】